

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 121

江戸川区立第三葛西小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	+1	+1	+1	0	+4	+4	0	0	
令和7年度の結果	+3	+1	+4	令和7年度の結果	0	-2.5	+4.8	+4.1	-1.6	-1.5	+2.8	+5.4	
令和6年度の結果	+5	+5	+10	令和6年度の結果	+2	0	+1.5	-1.2	+1.5	+2.1	+4.0	+6.2	
令和5年度の結果	+5	+7	+12	令和5年度の結果									

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度 目標達成に向けた取組	
内容	成果と課題		目標	
学校全体	<p>【成果】 ○国語科では、児童一人一人が問いをもつこと、問いの解決に向けて文章を根拠に取り組むことを行った。日々の音読を宿題とし、文章を読み込むことを継続した。4年生以上は、週1回よむYOMUワークシートに取り組み、読み解く力の向上に繋がった。 ○算数科では、習熟度別少人数指導の効果を最大限に出せるように、習熟度別に授業展開を工夫したことで、基礎的内容の定着と応用力を引き上げることができた。</p> <p>【課題】 ○どの学年も、D層の引き上げに苦戦している。</p>	<p>○OCD層の割合を全体の3分の1以下にする。 ○どの学年も、区学力調査において、上記の目標数値を上回る。</p>	<p>○各学年の児童の実態を把握し、実態に合った授業内容の充実に加え、日々の宿題の出し方や、取り組み確認を丁寧に行い、定着状況を細かく点検する。状況に合わせて個別指導を行い、定着度を上げていく。 ○算数科では、習熟度別少人数指導により、基礎の定着、応用力を身に付けるなど、習熟度別の学力向上が確実に成し遂げられるように毎時間の授業展開を工夫する。</p>	
第1学年	<p>【成果】 ○国語科では、「質問」「復唱(繰り返し)」「共感(いいね)」「感想」の4つを中心に、対話の指導を行った。2~3人で話を聞かせることができた児童が増えた。 ○算数科では、繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算について、さくらんぼなどを使って計算の仕方を説明できる児童が増えた。 ○早とちりや思い込みをしたり、問題を読み飛ばしたりして、誤った解答をする児童が少なくなった。</p>	<p>○国語科では、平仮名、カタカナ、漢字の確実な習得を図る。自分の考えを書いたり話したりする活動を通して、自分の考えを相手に伝えることができるようになる。 ○算数科では、問題を丁寧に読み、計算できるようにする。計算の仕方を分かりやすく伝えたり、早く簡単に計算したりできるようにする。</p>	<p>○特殊音節や、正しい語の読みから流暢性を高めるために動作化したり言葉に触れる時間を作る。そのために、読みのつまずきを発見することができるように、正しい読みのルールを視覚的に提示する。特に、特殊音節の正確な表記の習得を促す。また、音読の際には繰り返し声に出して読むようにする。 ○算数科では、動作化を通して数の概念の定着を図る。数唱を繰り返しながら、数字を見て、数を数えることを繰り返し行っていく。また、さくらんぼ計算等の基礎的な計算を繰り返す。</p>	
第2学年	<p>【成果】 ○毎週末に日記の宿題を出した。文章を書くことに慣れ、習った漢字を使える児童が増えた。 ○「九九チャレンジカード」の取り組みで、98%の児童は全ての段で10秒以内に言えるようになった。 【課題】 ○くり上がり、くり下がり計算で、指を使って考える児童が2割程度いる。 ○自分の考えを簡単な表やグラフを使って、表現できない児童が2割程度いる。</p>	<p>○国語科の授業では、音読の力を伸ばしたり、言葉集めを行って語彙を増やしたりする。 ○全児童が、九九をすらすらと唱えられるように、生活場面で活用できるようにする。</p>	<p>○家庭学習と連携しながら、週1回の家庭学習に日記を書くことを組み込んだり、各教科でお世話になった方々に手紙を書くこと計画的に行ったりすることで、思ったことや伝えたいことを明確にして文章を書くことができるようになる。 ○九九の定着に向けて、家庭と連携したカードを作成し、保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。成果を確かめるため、励みになるような九九検定を行う。</p>	
第3学年	<p>【成果】 ○国語科では、問いをもつこと、問いの解決に向けて文章を根拠に取り組むことを行った。結果、自分の考えをもち、表出する力の育成が見取れ、応用問題での全国平均+1.8に繋がった。 ○算数科では既習内容の振り返り力を入れることで、基礎的内容の定着に繋がった。 【課題】 ○江戸川区学力調査として、国語科では基礎内容、算数科では基礎・応用内容共に全国平均を下回った。</p>	<p>○国語科では、1人1人が考えをもち、表現できるようにする。また、自分の考えに根拠をもてるようにする。 ○算数科では、基礎基本的な計算技能の定着とともに、自分の考えをノートや説明を通して表現できるようにする。</p>	<p>○国語科では、宿題を含め音読の時間をしっかり確保し、文章の構成や登場人物の気持ちなどを捉えられるようになる。個人で考える→小集団で話し合う→全体で共有する等、段階的に活動することで、自己の考えを表現することに対する自信に繋げる。漢字の小テストを定期的に行い定着を図る。 ○算数科では、基礎コースを中心に学習の中で既習事項(九九、たし算ひき算の筆算等)を取り扱い、確実な定着を図る。文章問題における立式の根拠や解決方法を友達に説明したり共有したりする時間をしっかり確保することで、理解を深める。→応用力に繋げる。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ○国語科では、説明的文章の読み取りを生かして要約を繰り返した。また、漢字の習得に向けて、習熟度別にテストを行った。その結果、都・全国平均を大きく上回った。 ○算数科では、習熟度別にクラス分けをし、実態に応じた指導を行った。また、解答だけでなくそこに至る過程を重視し、交流する時間を多く設けた。その結果、都・全国平均を大きく上回った。 【課題】 ○国語・算数どちらもC層の児童が、B層に移った。その一方で、A層よりもB層の児童が増えた。表現力に加え、思考力の育成も課題である。そのため、既習事項や前時の繋がりを活用し、自分の考えを書いたり伝えたりする活動の充実と課題が残った。</p>	<p>○算数科では、早く正確に計算する力を身に付ける。また、問題を読んで理解し、解決方法を自分なりに考えられるようにする。 ○勝手な思い込みをせず、文を正確に読んで内容を理解できるようにする。 ○語彙を増やし、表現の幅を広げる。</p>	<p>○算数科では、繰り上がりや繰り下がり、かけ算九九などを反復練習する時間を授業の中で設定したり、宿題に出したりする。また、習熟度に応じた授業展開を確実に行う。 ○友達と考えを比べる経験を通して多様な解決方法を発想できるようにする。 ○国語科では、新しく出合った文章を授業内で必ず音読し、日々の宿題でも音読を行うようにする。 ○辞書ゲームを通して、楽しみながら新しい言葉に出合う経験ができるようにする。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ○「文章を書く」「考えを表現する」ことを苦手と感じている児童が多かったため、朝学習の「よむYOMUワークシート」を活用し、100字程度の文章を書く活動を行った。児童がイメージし易く、馴染みのあるテーマを設定したことで、徐々に書くことに慣れることができた。また、内容の解説をした後に、具体的に評価をつけた。視覚化されたことで、もっと上の評価を目指し、高いモチベーションを維持する児童を増やすことができた。 【課題】 ○A層とC層の差が大きくなった。その結果、学力テストでは全国平均に届かなかった。</p>	<p>○算数科では、基礎基本的な計算技能の定着とともに、文章問題における立式の根拠を理解し、正確に解決できる力を育成する。 ○国語科では、文章の要点を的確に捉える読解力と、自分で筋道を立てて表現する記述力の向上を図る。</p>	<p>○算数科では、ドリル・パーク、日々の宿題を通して、計算練習の継続と、問題文の読み取りでは、線によって整理する習慣を身に付ける。 ○今後も、朝学習の「よむYOMUワークシート」を活用し、100字程度の文章を書く活動を継続し、自分を分かりやすく理由をつけて文章を書く練習を行う。</p>	
第6学年	<p>【成果】 ○国語科では、校内で「話す・聞く」の研究に2年間取り組んできた成果が、7年度の学力調査の結果に表れた。日常でも、国語の授業に限らず、意見交流の時間を確保し、自分の考えと聴く人の意見や共通点や相違点を見つかりたりすることで、思考力・表現力の向上につながったと考えられる。 ○算数科では、少人数授業での学習展開を児童の実態に合わせて工夫した。考え方の説明を重点にしたり、繰り返し練習し練習することを重点にしたりすることで、全国平均を大きく上回ることができた。 【課題】 ○D層の厚さが前年度と変わらない。D層の児童においては、国語、算数のみならず、各教科全体的な底上げが課題である。</p>	<p>○算数科では、C・D層を中心に四則計算を中心とした既習事項について定着を目指す。A・B層は立式の根拠や解き方について、他者に伝えるように表現できるようにすることを旨とする。 ○国語科では、自己の考えを表現する力を目指す。学力テストでの無回答率を減らす。</p>	<p>○算数科では、授業の導入で前時や既習事項の振り返りを行うことで定着を目指す。家庭学習や自主学習を通して、自己の課題に合った学習を行う。 ○国語科では、個人で考える→小集団で話し合う→全体で共有する等、段階的に活動することで、自己の考えを表現することに対する自信に繋げる。</p>	